

クリの樹体拡大や収量確保のための樹齢別の適樹勢を簡単に診断できる基準を策定

【要約】 クリ主要品種の「丹沢」及び「筑波」について、低樹高・超低樹高仕立てにおける樹齢別の適樹勢を、樹の観察や新梢長、葉色等の簡易測定で診断できる基準（時期、部位及び数値目安）を策定した。診断結果は、基肥及び追肥の量加減の判断等に活用できる。

中山間農業研究所 中津川支所

【連絡先】 0573-72-2711

#### 【背景・ねらい】

東美濃クリ産地を中心に、低樹高・超低樹高仕立て法の普及とクリの需要拡大を背景に産地拡大が進んでおり、新規栽培者も増えつつある。現地からは新規栽培者でも容易に施肥量の増減や剪定程度を見極められるような基準が求められている。

そこで、クリの樹体拡大や収量確保の観点から、樹の観察や簡易測定で樹齢別の適樹勢を診断できる基準を策定する。

#### 【成果の内容・特徴】




- 1 クリ「丹沢」及び「筑波」において、開花期前（6月上旬：6月追肥施用前）、収穫期前（8月下旬：9月礼肥施用前）、落葉期（11月下旬：基肥施用前）に、樹の枝と葉を対象として、色・長さ・太さ・落葉程度を調べることで、樹勢の良し悪しが診断できる（表1）。
- 2 幼木期は、開花期前に主枝先端新梢の葉色（SPAD値）及び長さを、落葉期に主枝先端新梢の長さ、葉の黄化程度及び落葉程度（観察）を測定し判定する（表1、2）。
- 3 若木期は、開花期前に主枝先端新梢の葉色及び長さ、落葉期に結果母枝候補枝の基部径、葉の黄化程度及び落葉程度（観察）を測定し判定する（表1、2）。
- 4 成木前期は、開花期前に結果枝の葉色、長さ、落葉期に結果母枝候補枝の長さ、基部径を測定し判定する（表1、2）。
- 5 成木後期は、開花期前に結果枝の葉色、長さ及び発育枝の長さ、収穫期前に発育枝の長さ、落葉期に結果母枝候補枝の長さ、基部径を測定し判定する（表1、2）。

#### 【成果の活用・留意点】

- 1 本基準に基づく診断対象は、岐阜県方式の低樹高・超低樹高仕立ての「丹沢」及び「筑波」とする。
- 2 診断結果は、開花期前の診断では初夏の追肥（6月中旬）、収穫期前の診断では礼肥（9月下旬～10月上旬）、落葉期の診断では基肥（2～3月）の量及び剪定量の判断に活用できる。
- 3 診断に基づく施肥量、剪定量の調整は、土壌条件によって異なるため、1～2割程度を加減しながら数年かけて行くとよい。
- 4 診断を行う前には、樹の生育を妨げる凍害や病虫害（カミキリムシ類、カイガラムシ類など）の被害の有無を確認し、被害を受けている場合は先ずその対応を行う。

【具体的データ】

表1 クリの樹齢別の適樹勢を診断できる基準（時期、部位及び数値目安）

調査時期		6/上旬 (開花期前)	8/下旬 (収穫期前)	11/下旬 (落葉期)
<b>幼木期</b> (1~3年生) 	丹沢	・主枝先端新梢の葉色 <sup>Z</sup> 45~50 ・" 長さ 30~40cm	—	・主枝先端新梢の長さ 60cm前後 ・葉色 黄 ・落葉程度 10%以下
	筑波	・主枝先端新梢の葉色 45~50 ・" 長さ 30~50cm	—	・主枝先端新梢の長さ 60~80cm ・葉色 ヤヤ緑~黄 ・落葉程度 5%以下
<b>若木期</b> (4~6年生) 	丹沢	・主枝先端新梢の葉色 45~50 ・" 長さ 30~35cm	—	・結果母枝候補枝 <sup>Y</sup> の基部径 8~10mm ・葉色 黄 ・落葉程度 10%以下
	筑波	・主枝先端新梢の葉色 45~50 ・" 長さ 25~30cm	—	・結果母枝候補枝の基部径 8~10mm ・葉色 ヤヤ緑~黄 ・落葉程度 5%以下
<b>成木前期</b> (7~14年生) 	丹沢	・結果枝の葉色 40~48 ・" 長さ 30cm前後	—	・結果母枝候補枝の長さ 40~45mm ・" 基部径 8mm前後
	筑波	・結果枝の葉色 35~48 ・" 長さ 25~30cm前後	—	・結果母枝候補枝の長さ 40~50mm ・" 基部径 8~10mm
<b>成木後期</b> (15年生~) 	丹沢	・結果枝の葉色 40~45 ・" 長さ 30cm前後 ・発育枝の長さ 55~65cm前後	・発育枝の長さ 150~190cm	・結果母枝候補枝の長さ 150~200cm ・" 基部径 12~14mm
	筑波	・結果枝の葉色 45~55 ・" 長さ 35~40cm ・発育枝の長さ 60~70cm	・発育枝の長さ 140~180cm	・結果母枝候補枝の長さ 150~180cm ・" 基部径 14~16mm

注) z: SPAD葉緑素計による(葉緑素含量を示す値)。y: 若木及び成木前期は新梢、成木後期は発育枝を指す。

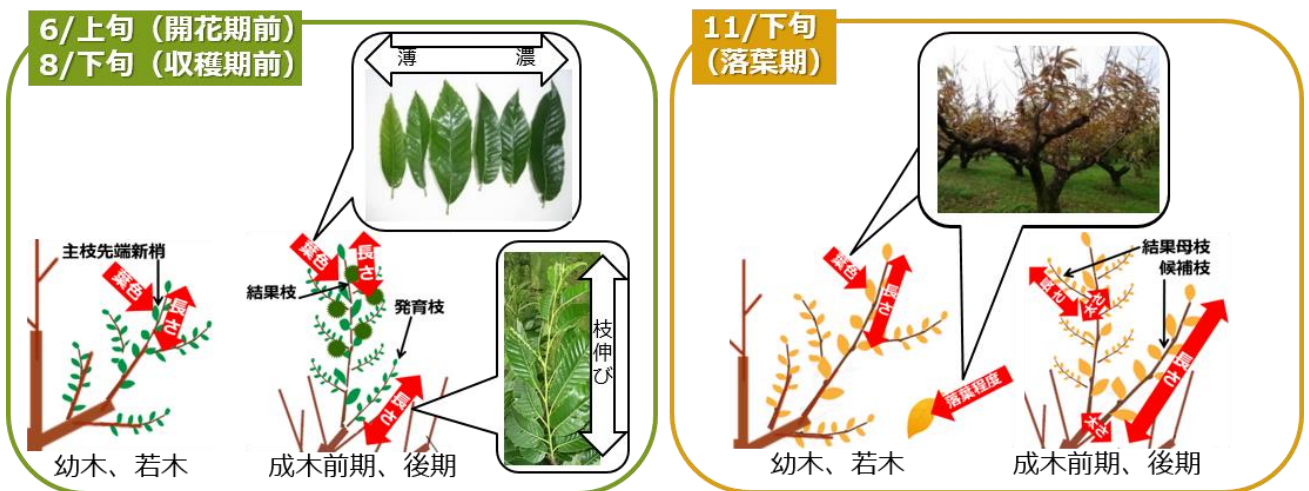


図1 診断方法

研究課題名: クリ・人・環境にやさしい施肥体系の確立 (平成25~28年度)

研究担当者: 磯村秀昭、神尾真司